土壌インベントリ事業説明会（四国地区）

開催日 2010 年 10 月 28 日（木）、29 日（金）
場所　 愛媛県松山市北条庄乙１４４（格子点 ID 380185）
講師　 池田（森林総研）、酒井・森下（森林総研四国）
参加者 三宅（徳島県）、渡邉・古川（愛媛県）

日程

10 月 28 日（木）
13:30　集合　マルナカ北条店（愛媛県松山市北条）
14:00　日程説明・講習会開始　枯死木調査法の説明と実習
14:30　堆積有機物量調査法の説明と実習
15:30　土壌炭素蓄積量調査法の説明と実習
17:30　1 日目講習会終了

10 月 29 日（金）
9:30　講習会開始　土壌断面調査法の説明と実習
12:20　講習会終了、現地解散

記録

愛媛県および徳島県の土壌調査担当者を対象に、土壌炭素蓄積量調査の実技講習会をおこなった。担当者からの要望もあり、特に、堆積有機物の区分、土壌断面調査法について詳しく講習をおこなった。

講習会前日の天気予報では、台風 13 号、14 号、そして前線の影響による悪天候で開催が危ぶまれたが、当日は、この時期としては肌寒かったものの、雨がぱらつく程度で、無事講習会をおこなうことができた。

10 月 28 日は､講習実施地点の近くのスーパーマルナカの駐車場に集合して、愛媛県農林水産研究所近くの春日神社の裏山で講習会を開始した。今回の実技講習実施調査地は、平成 17 年 8 月 24 日に森林資源モニタリング調査がおこなわれている。調査地は、西向きの山腹凸型斜面に位置するシイ、カシが優先する二次林であった。実習用の土壌断面は愛媛県の方々によって、すでに前日までに用意していただいていた。さらに、土壌の違いについて、比較検討しやすいよう、斜面下部に別に断面を準備していただいた。土壌はいずれの地点も花

崗岩を母材としていた。まとまりやすい規模の人数であったため、両日ともグループ分けをせず、全体で講習会をおこなった。この日は、堆積有機物および土壌採取についての説明と実習をおこなった。堆積有機物層と鉱質土壌層の境界は、必ずしもはっきりしていないため、その境界の見極めが難しいことも多いが、堆積有機物の試料に鉱質土壌試料が混じると炭素蓄積量を算出する際、重量を過大に見積もってしまうことにより、誤差が大きくなるため、堆積有機物側の試料には、極力、礫や土壌が入らないよう注意して採取することを確認した。さらに、円筒による土壌採取については、1～5cm、8～12cm の試料は、斜面に対して垂直に採取することも確認した。

10 月 29 日は、前日と同じ地点において、土色、土壌構造、土性、そしてこれらの結果から土壌型の判定をすることに講習の多くの時間を割いた。代表断面については、池田・酒井講師が説明し、そのほかの断面については、各自、手があいたときにそれぞれ観察した。断面における根や礫の割合を決める際の土色帖利用方法について説明した。土壌構造については、褐色森林土の土壌型判定のポイントとなってくる団粒状構造および粒状構造の見分け方について、詳しく実技講習をおこなった。その結果、代表断面では、A 層が薄く、多少発達した F 層が見られ、A 層上部に粒状構造が比較的多く見られたことから、$B_D(d)$と判定した。斜面下部の断面は山腹斜面中腹から下部に位置して、A 層が比較的厚く、団粒状構造が発達していたので、B_D と判定した。

予定よりも 1 時間程度超過したものの、お昼に講習会は全ての日程を終了して、現地での解散となった。

断面調査の実習風景

$B_D(d)$と判定された断面